

## 5. 椿井遺跡第5次発掘調査報告

### 1. はじめに

今回の調査は、京都府農林水産部が実施する平成23年度府営基幹農道整備事業山城2期地区に先立ち、京都府山城土地改良事務所の依頼を受けて実施した。同事業施行地は、山間及び里山地に位置し、竹林・田畑等の自然環境が良好に残存する地域である。また、地域の交通事情としては、主要道路である国道24号線及び府道への接続が西側を南北に縦断するJR線により分断され、中・大型車両の通行が困難となっている。そのため、山間・里山地の農地とを結ぶ農作物輸送路の整備が早急に望まれることから、本事業は計画されることとなった。

事業対象地には、椿井遺跡をはじめ多くの埋蔵文化財包蔵地が所在している。京都府教育委員会と京都府農林水産部は、それらの取り扱いについて協議を行い、埋蔵文化財包蔵地がやむを得ず影響を受ける部分については、当調査研究センターが記録保存調査を実施することとされた。

今年度については、椿井遺跡及び松尾古墳群での発掘調査を実施する運びとなった。

椿井遺跡では、これまでに同事業に関連して当調査研究センターが4次にわたって発掘調査を実施しており、今回が第5次調査となる。また、近接地では山城町教育委員会(現木津川市教育委員会)が、天上山古墳及び松尾<sup>(注1)</sup>廃寺の発掘調査を実施している。

**第1次調査** 平成16年9月21日から平成17年2月10日にかけて、遺跡範囲の北半に所在する丘陵上において880㎡の調査を実施した。<sup>(注2)</sup>縄文時代から近世に至る各時期の遺構を確認した。標高60m前後を測り、平野部との比高も30mを有する地点で弥生時代後期中葉の竪穴式住居跡を2基検出したことから、平野部を見わたす高地性集落の存在が明らかとなった。

**第2次調査** 平成17年4月17日から同年5月30日にかけて、第1次調査地点と谷を挟んで南側に所在する丘陵上において320㎡の調査を実施した。<sup>(注3)</sup>弥生時代後期の溝跡や遺物包含層、近世以降の耕作溝等を検出したが、地形の改変により多くの遺構はすでに削平されたと判断された。

**第3次調査** 平成21年10月28日から平成22年2月18日にかけて、遺跡範囲の中央やや南よりの丘陵上において1,200㎡の調査を実施した。<sup>(注4)</sup>弥生時代後期の溝・土坑、飛鳥時代の掘立柱建物跡・溝、中世以降の土坑等を検出した。飛鳥時代の遺構は、同遺跡では初検出であり、調査地東側にその存在が想定される松尾廃寺の造営に関連する遺構の可能性が指摘されている。

**第4次調査** 平成22年8月10日から同年11月21日にかけて、遺跡範囲の南端に所在する丘陵先端部とその裾部において1,050㎡の調査を実施した。<sup>(注5)</sup>丘陵頂部には寒光坊古墳群が所在しており、新たに未周知の石室を2基検出した。いずれも横穴式石室で、築造時期は古墳時代後期と判断された。また、丘陵裾部では旧石器時代のナイフ形石器が出土しており、南山城地域での数少ない旧石器の類例を加えることとなった。松尾古墳群では、これまでに発掘調査が行われたことはない。松尾神社南側の丘陵斜面において、損壊の著しい石室及び散乱する石材が確認されており、

石室実測調査の際に、遺物が採集されているのみである<sup>(注6)</sup>。

本報告で使用した国土座標は日本測地系(第Ⅵ座標系)である。土層の注記には『新版標準土色帖』(農林水産省農林水産技術会議事務局監修)を用いた。

現地調査に当たっては、京都府教育委員会並びに木津川市教育委員会のご指導・ご助言をいただいた。また、地元椿井区には御高配を賜った。記して感謝します。なお、調査にかかる経費は、全額京都府山城広域振興局が負担した。

〔調査体制等〕

現地調査責任者 調査第2課長 水谷壽克

調査担当者 調査第2課調査第2係長 岩松 保

同 調査員 奈良康正

調査場所 木津川市山城町椿井松尾・松尾崎地内

現地調査期間 平成23年7月11日～8月19日

調査面積 201㎡

## 2. 位置と環境(第1図)

椿井遺跡は、木津川右岸の段丘上に立地する縄文時代から古墳時代及び中世の遺物散布地・集落跡として、遺跡台帳に登録された周知の埋蔵文化財包蔵地である。同遺跡の範囲内には、前期古墳である椿井大塚山古墳、天上山古墳並びに御霊山古墳が所在している。また、今回の調査対象地の北東には、松尾神社が鎮座する。当社は上狛・林・椿井の3集落の鎮守社として信奉を集め、本殿は国重要文化財に指定されている。また、拝殿・表門及び境内社御霊神社本殿の3棟は府登録有形文化財に登録されており、境内地は府文化財環境保全地区の決定を受けている。平成7年度には、表門解体修理工事に伴い山城町教育委員会により発掘調査が実施され、現存する土塀の構築時期が鎌倉時代後期と判明するとともに、さらに古い段階の版築構造を有する築地塀跡が確認された。当社の土塀に白鳳期の瓦が混入することは夙に有名で、過去に境内地において7～8世紀代の瓦が採集されていることから、この築地塀跡が白鳳期に存在した松尾廃寺に伴う可能性が示唆されている<sup>(注7)</sup>。松尾神社の南側丘陵斜面には、松尾古墳群が所在する。

木津川が形成した沖積地にはいくつかの集落跡が所在する。上狛北遺跡<sup>(注8)</sup>では、平成21・22年度に当センターが発掘調査を実施しており、古墳時代、奈良時代、中世の遺構・遺物が検出された。奈良時代の遺構としては、総延長100mに及ぶ南北方向の溝跡やそれにより区画された掘立柱建物跡群が検出されており、木簡や墨書土器などの文字資料も出土している。これらの成果は、恭仁京域を復元する際の手がかりになるものと考えられている。上狛東遺跡<sup>(注9)</sup>では、高麗寺の伽藍方位と一致する掘立柱建物跡、区画溝、柵列等が検出されている。これらの遺構群の存続時期は高麗寺とも重なっており、同寺の造営氏族の居館を含む広域の経済基盤をなしていた施設と捉えられている。国指定史跡である高麗寺跡は、飛鳥時代創建の寺院跡である。法起寺式の伽藍配置を有し、木津川を南側に睥睨する河岸段丘上に占地する。地元教育委員会により数次にわたる発掘



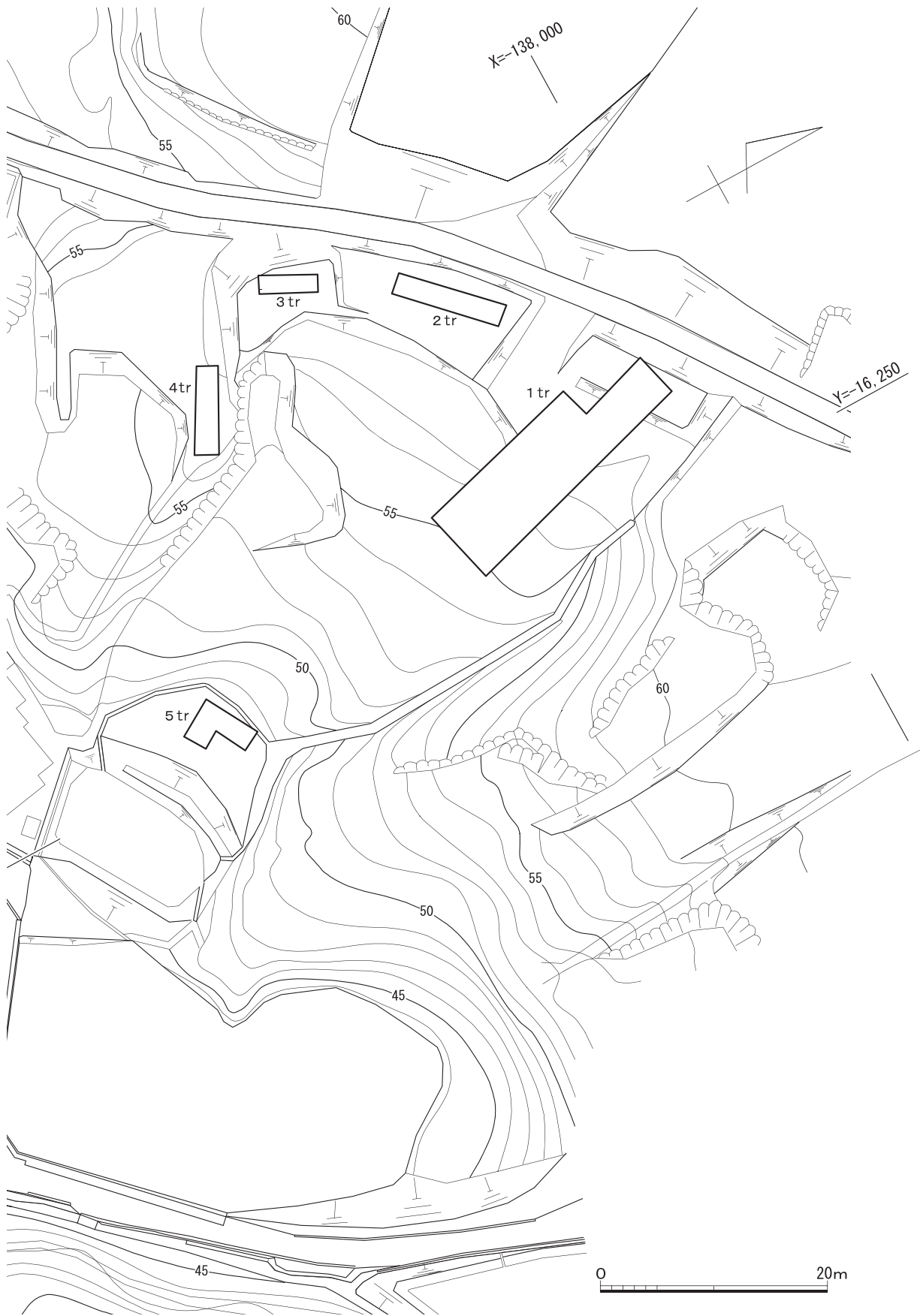
- |          |            |           |          |           |           |
|----------|------------|-----------|----------|-----------|-----------|
| 1 椿井遺跡   | 10 萩谷古墳    | 19 天上山古墳  | 27 上粕西遺跡 | 35 蓮池古墳群  | 44 清盛山古墳  |
| 2 松尾古墳群  | 11 堂ノ上遺跡   | 20 田護平古墳群 | 28 上粕北遺跡 | 36 蓮池古墓   | 45 平野畑古墳  |
| 3 松尾廃寺   | 12 西ヶ峰古墳群  | 21 東山城跡   | 29 柳田遺跡  | 37 上粕東遺跡  | 46 千両岩古墳群 |
| 4 今城跡    | 13 神童子遺跡   | (旧高之林城跡)  | 30 御霊山古墳 | 38 野田芝遺跡  | 47 千両岩遺跡  |
| 5 城山遺跡   | 14 坂ノ下遺跡   | 22 寒光坊古墳群 | 31 粕城跡   | 39 高井手瓦窯跡 | 48 魚谷古墳   |
| 6 平尾城山古墳 | 15 椿井大塚山古墳 | 23 切ヶ敷古墳群 | (大里環濠集落) | 40 天竺堂古墳群 |           |
| 7 稲荷山古墳  | 16 ムナガイ遺跡  | 24 高築山古墳群 | 32 天敷堂古墳 | 41 高麗寺跡   |           |
| 8 北谷横穴群  | 17 宮城谷古墳群  | 25 松谷古墳   | 33 小杉谷古墳 | 42 高麗寺瓦窯跡 |           |
| 9 北原古墳群  | 18 椿井城跡    | 26 猿谷古墳群  | 34 金村古墳  | 43 袋谷古墳群  |           |

第1図 調査地及び周辺遺跡位置図(国土地理院 1/25,000 田辺・奈良)

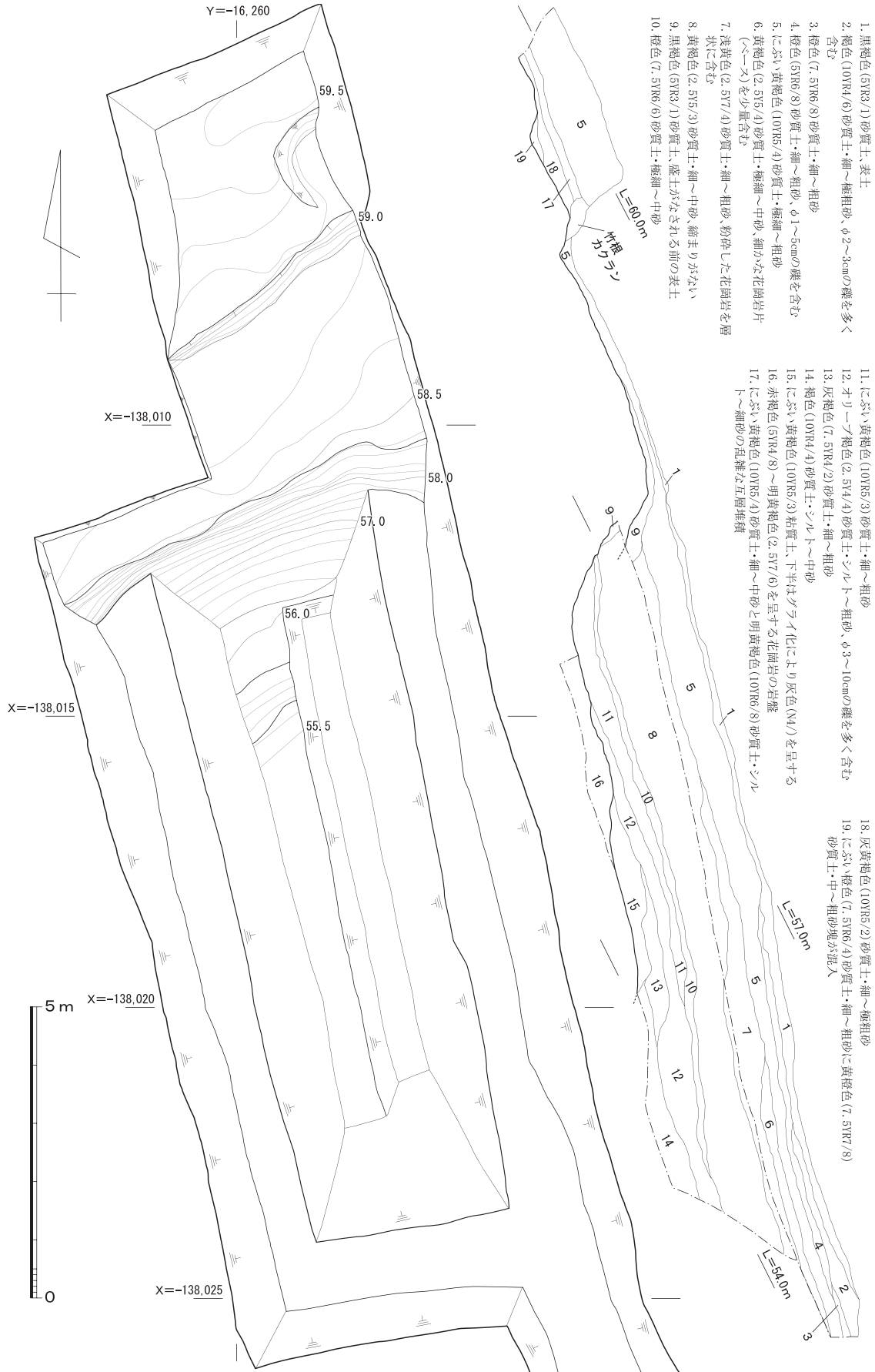
(注10) 調査が実施されており、近年では史跡整備事業に向けた発掘調査が精力的に実施されている。高麗寺跡の寺域東南に隣接して構築された高麗寺瓦窯跡は、高麗寺専用の瓦窯で、窖窯である1・2号窯、半地下式のロストル式平窯の3号窯の計3基が確認されている。いずれも南向きの段丘傾斜面に構築されており、1・2号窯は伽藍整備Ⅱ期の操業を、3号窯は修理用の軒丸瓦を生産していることから平安時代初頭の操業がそれぞれ比定されている。また、高麗寺専用の瓦窯として高井手瓦窯跡が知られている。町道新設に先立ち発掘調査が実施され、平安時代初頭に高麗寺補修用の瓦を生産した窯跡を2基検出している。(注13)

### 3. 調査成果

調査対象地は北西から南東に傾斜する丘陵縁辺部で、標高は47.6～60.5mを測る。現況は竹林であり、古墳状隆起が数か所に確認される。調査に当たっては、事業の施行により大きく削平を受ける地点を中心に5か所の調査トレンチを設定し、顕著な遺構を確認した時点で調査範囲を拡張することとした(第2図)。



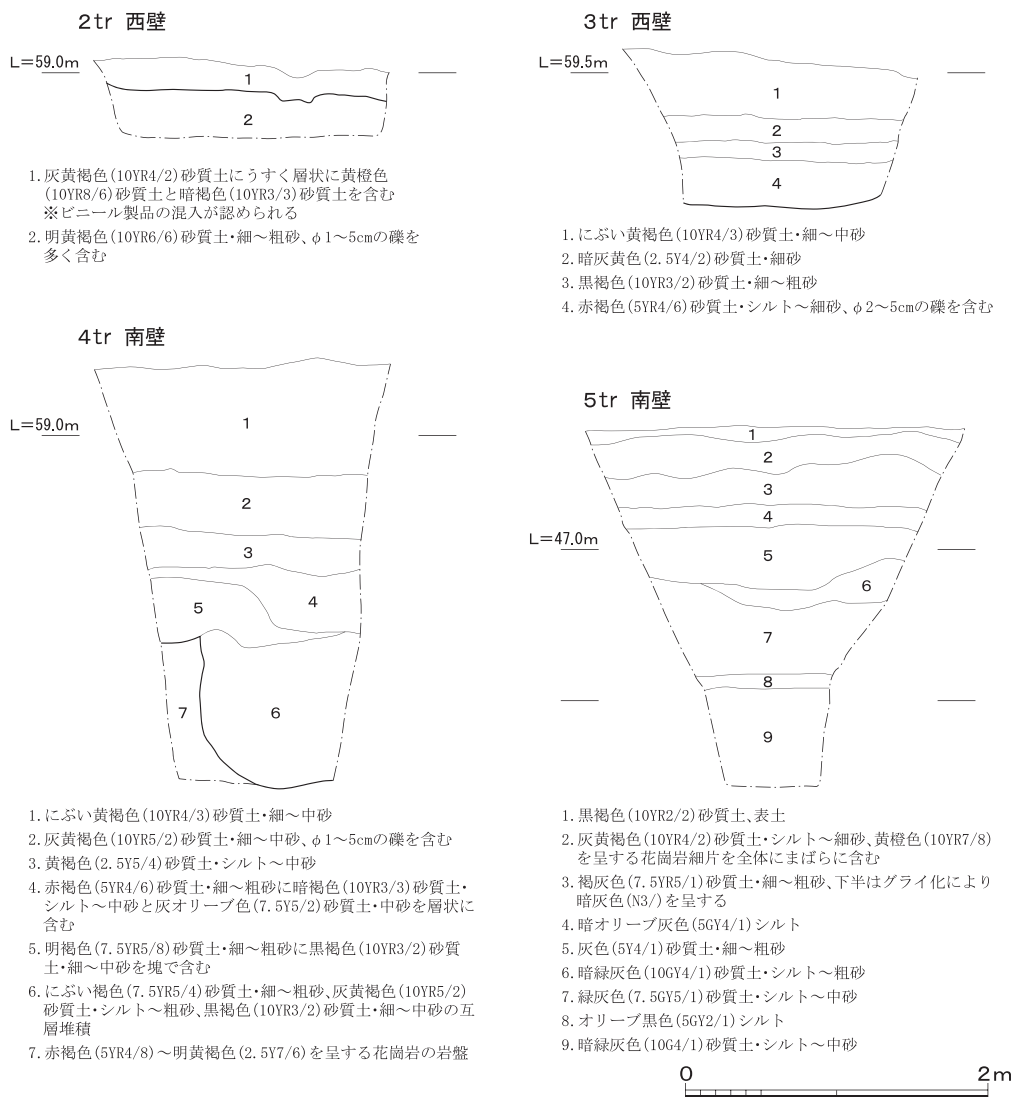
第2図 調査トレンチ配置図



第3図 1トレンチ 平・断面図

(1) 1 トレンチ(第2・3図) 調査対象地北東部の南向き緩斜面に設定した。当初は東西7m、南北16mとしたが、北端の隆起が古墳の墳丘である可能性を考慮し、その地点まで調査区を拡張した。最終的な調査面積は140㎡である。北端の盛土は比高1.3mを測り、最も標高が高い地点である。堆積状況を確認しながら人力により掘削した結果、およそ1.0mに及ぶほぼ単一の盛土層を確認し、古墳ではないことが判明した。また、その際に検出した平坦面は、およそ7mで途切れ、花崗岩の岩盤を削りこんだ比高2.4m前後を測る崖状地形となっていた。そこから先は南側へ向かって緩やかに傾斜していたが、現地表から深さが3mを超えたため、安全対策上、掘削を中止した。この崖線は、現況で東西に確認される崖状地形の延長線上にあり、本来の地形が埋められていたと考えられる。岩盤直上で検出したにぶい黄褐色粘質土(第15層)以外は締まりのない堆積であること、古い時期の遺物が含まれないことから、この埋没は新しい時期になされたと判断される。

(2) 2 トレンチ(第2・4図) 調査対象地の北西端の平坦面に東西10m、南北2mの範囲で設定した。調査面積は20㎡である。灰黄褐色砂質土を0.2mほど除去すると地山面となり、部分的



第4図 2～5トレンチ 土層断面図

に旧表土と考えられる黒褐色砂質土が薄く残存していた。遺物は出土せず、遺構も検出できなかった。灰黄褐色砂質土(第1層)には、ビニール製品が含まれることから、新しい段階に削平を受け、盛り土されたものと考えられる。

(3) 3トレンチ(第2・4図) 2トレンチを設定した平坦面の南西側に存在する高まりに設定した。東西5m、南北2m、調査面積は10㎡である。現標高は59.6m前後を測る。古墳の墳丘を想定して掘削を行い、4層にわたる堆積を確認したが、黒褐色砂質土(第3層)は旧表土と判断でき、その上層は新しい段階の盛り土と考えられる。その下層の赤褐色砂質土(第4層)から遺物は出土せず、0.3m程で2トレンチと同様に地山面となり、北東から南西へと緩やかに下る傾斜を確認した。遺構は検出できなかった。

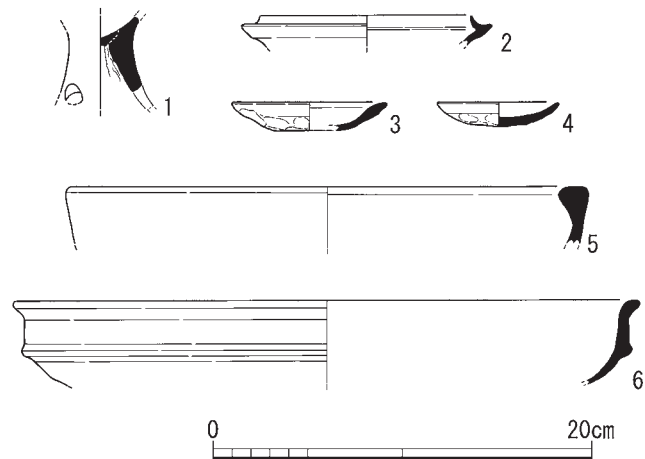
(4) 4トレンチ(第2・4図) 調査対象地の南西端に東西2m、南北8mにわたって設定した。調査面積は16㎡である。狭い丘陵尾根筋が南東方向に延びており、古墳の存在が推測された。調査の結果、当地点は北から南に傾斜する段状地形となっており、南西側に平坦面を形成するために、その段状地形に盛り土を行っていたことが判明した。この盛土も竹林の土入れに伴うと考えられる。

(5) 5トレンチ(第2・4図) 調査対象地の南端の最も低位となる地点に設定した。調査面積は15㎡である。北側丘陵裾部分の平坦面で、直近まで耕作地として利用されており、丘陵裾からは常時、湧水が認められた。現地表から2.5m下まで掘削を行ったが、砂質土とシルトの水平な互層堆積が確認でき、丘陵からの土砂流れ込みによる埋没を示していた。安定した遺構面の確認には至らず、古墳時代から近世にわたる遺物が出土した。

#### 4. 出土遺物(第5図)

今回の調査で出土した遺物は、遺物コンテナ1箱分である。いずれも細片である。

1は高杯の脚柱部片である。弥生時代後期に属すると判断される。摩滅により器面調整等は確認できないが、透かし孔を3方向に穿っている。1トレンチののぶい黄褐色粘質土(第15層)から出土した。瓦器碗の細片が同一層から出土している。2は須恵器杯身である。5トレンチから出土した。全体の1/20程の残存であるが、復元口径は11.2cmを測る。胎土は緻密で、焼成は良好である。その特徴からTK209に比定される。3・4中世のは土師器皿である。3は3トレンチから出土した。1/4程度が残存する。口径は8.2cm、器高は1.5cmを測る。4は4トレンチから出土した。1/4程度が残存する。口径は6.4cm、器高は1.3cmを測る。5は焙



第5図 出土遺物実測図

烙である。4トレンチから出土した。口縁部付近がわずかに残存するのみであるが、体部が垂直に立ち上がり、端部を肥厚する。復元口径は27.2cmを測る。外面には煤の付着が認められる。6は焙烙である。1トレンチで実施した断ち割りの最下層となる褐色砂質土(第14層)から出土した。1/10程度が残存する。体部は垂直に立ち上がり、口縁部が強く外反する。底部との境界には突帯を一条めぐらせる。復元口径は33.0cmを測り、外面には煤の付着が認められる。

## 5. まとめ

今回、調査を実施したいずれの地点においても、顕著な遺構を検出することはできなかった。竹林としての利用に際し、丘陵部は削平されるとともに、土入れがなされ、さらに大規模な土取りが行われたことにより、複数か所で崖状地形が残るなど、大きく改変されたことが判明した。そのために、遺構は削平され消滅してしまったと考えられる。しかし、1トレンチでは、遺物包含層からではあるが弥生時代後期の遺物が出土しており、これは北西側で実施された第3次調査で検出された遺構と時期を一にするものである。また、5トレンチの遺物包含層からは、細片ではあるが古墳時代後期の遺物が出土しており、松尾古墳群と時期が一致する。今回の調査により、かつて丘陵上には、松尾古墳群を構成する古墳が存在していたと推察される成果を得ることができた。

(奈良康正)

- 注1 上田真一郎「I. 椿井天上山古墳 第1次調査 II. 松尾廃寺 第1次調査」(『山城町内発掘調査概報』IX 山城町教育委員会) 2000  
 島軒 満「椿井天上山古墳 第2次調査」(『山城町内発掘調査概報』XI 山城町教育委員会) 2001
- 注2 柴 暁彦・高野陽子「4. 椿井遺跡第1・2次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第117冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2006
- 注3 注2に同じ
- 注4 松尾史子・黒坪一樹「4. 椿井遺跡第3・4次発掘調査報告」(『京都府遺跡調査報告集』第146冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2011
- 注5 注4に同じ
- 注6 川西宏幸「第2章第3節 国家の形成」(『山城町史 本文編』) 1987
- 注7 中島 正「第3章第3節 発掘調査」(『京都府登録有形文化財(建造物)松尾神社表門修理工事報告書』松尾神社) 1997
- 注8 筒井崇史「木津川市上粕北遺跡(第2次)の発掘調査」(『京都府埋蔵文化財情報』第115号 公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2011
- 注9 中島 正「上粕東遺跡」(『山城町埋蔵文化財発掘調査報告書』第24集 山城町教育委員会) 2000
- 注10 中島 正「史跡高麗寺跡」(『山城町埋蔵文化財発掘調査報告書』第7集 山城町教育委員会) 1989
- 注11 中島 正「史跡高麗寺跡第6次～第10次発掘調査概報」(『山城町埋蔵文化財発掘調査報告書』第36・38集 山城町教育委員会・木津川市埋蔵文化財発掘調査報告書』第3・4・8集 木津川市教育委員会) 2006～2010
- 注12 注10に同じ
- 注13 中島 正・島軒 満「高井手瓦窯跡」(『山城町埋蔵文化財発掘調査報告書』第23集 山城町教育委員会) 2000





調査地遠景(北から)



(1) 調査地全景(上が東)



(2) 1トレンチ全景(南から)

(1) 1 トレンチ北端拡張区全景  
(南西から)



(2) 1 トレンチ東壁土層断面北半  
(西から)



(3) 1 トレンチ東壁土層断面南半  
(西から)

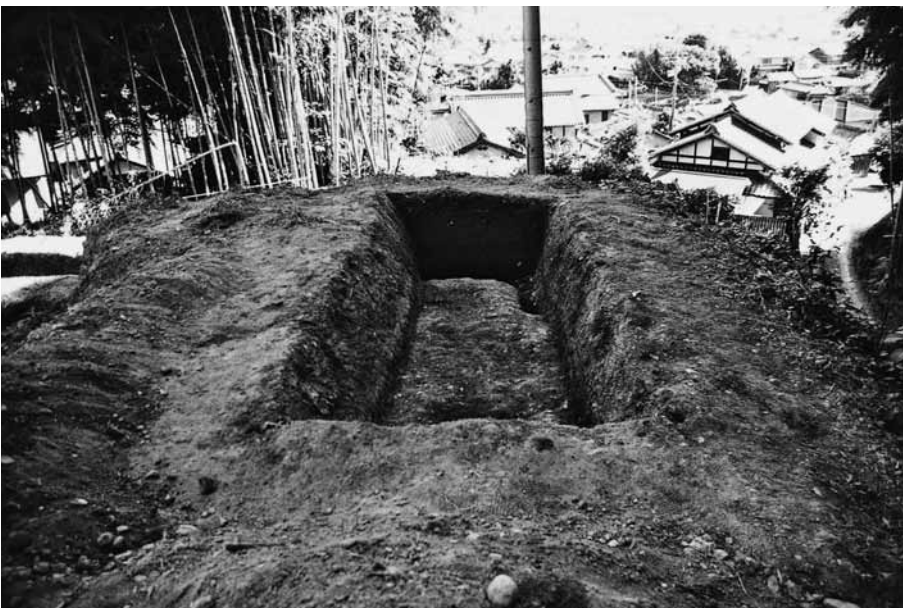




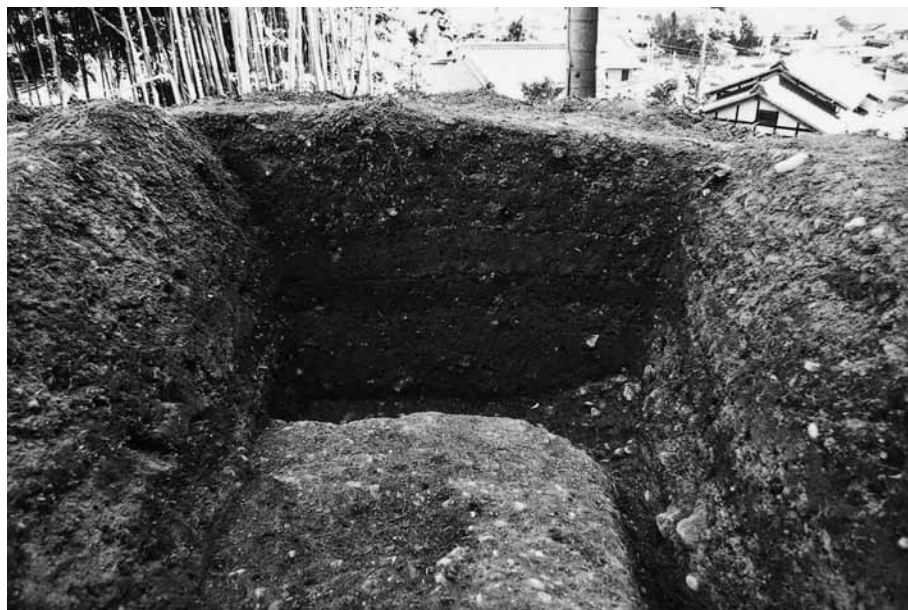
(1) 2トレンチ全景(北東から)



(2) 2トレンチ西壁土層断面  
(北東から)



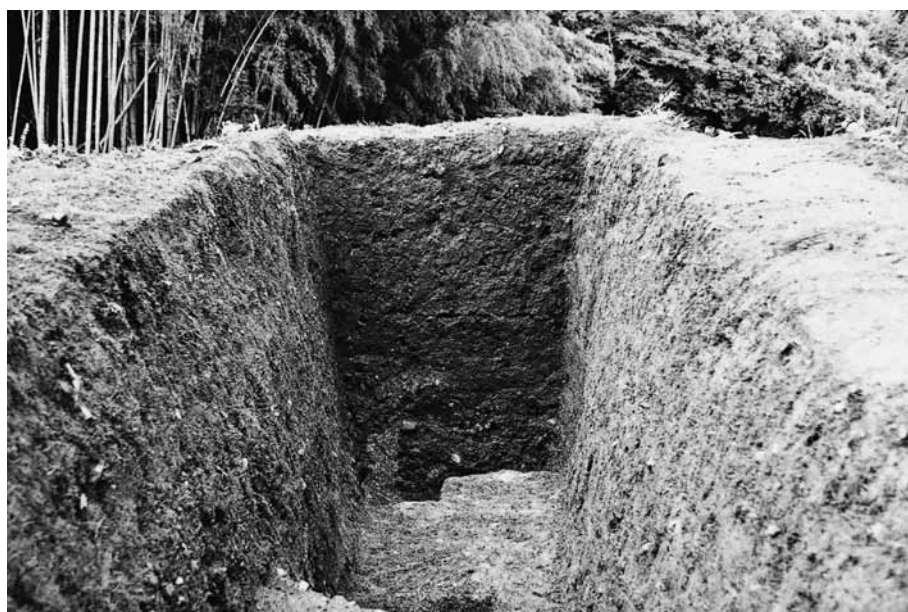
(3) 3トレンチ全景(北東から)



(1) 3トレンチ西壁土層断面  
(北東から)



(2) 4トレンチ全景(北西から)



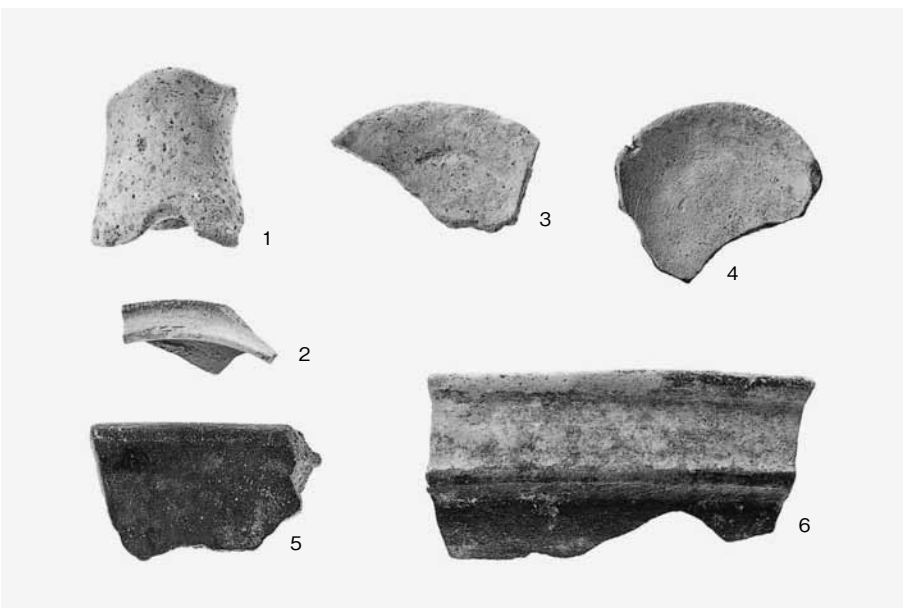
(3) 4トレンチ南壁土層断面  
(北西から)



(1) 5トレンチ全景(北西から)



(2) 5トレンチ南壁土層断面  
(北西から)



(3) 出土遺物

京都府遺跡調査報告集 第 149 冊

平成24年 3月31日

発行 公益財団法人  
京都府埋蔵文化財調査研究センター  
〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40番の3  
Tel (075)933-3877(代) Fax (075)922-1189  
<http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

印刷 三星商事印刷株式会社  
〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下ル  
Tel (075)256-0961(代) Fax (075)231-7141